

# 八清親和会 自治会役員の一とり言

平成30年2月15日

No3

八清親和会 副会長

吉田祐治

1月31日(水)昭島市社会福祉協議会主催の「地域懇談会」に八清親和会の本部委員(八清弥生会副会長:シニアクラブ)の2名で参加して来ました。

参加目的は、現在、八清親和会には昭島社会福祉協議会正会員は296名います。(平成29年度年会費納入ベース会員)八清親和会全会員に対し84%と高い社会福祉活動への賛同率です。

しかしながら、多くの八清親和会員は、社会福祉協議会の活動と自治会との活動の違い、あるいは自治会との関わりや連携が良く分からないのが実情です。

現在、八清親和会は、高齢者に対する活動はまだ十分ではありませんが、自治会に関わる活動と共に、100%八清親和会員で構成されているシニアクラブの八清弥生会と、共同活動や八清弥生会の独自活動でも補完し合い、会員や地域住民への周知と参加者の拡大を図っています。

しかし、社会福祉協議会の活動に於いては、八清親和会の組織としての接触がなく、また知る仕組みがなく、八清親和会、八清弥生会と共同、協力できる活動や、各々ができない活動の補完については、自治会役員が、社会福祉協議会活動に関心を持つか、興味を持つか、で個別に社会福祉協議会と接触し、協議することに委ねられているのではないのでしょうか。

私の個人的見解ですが、八清親和会の将来を見据えたとき、次に重点的に取り組むべき活動項目は、「高齢者福祉と見守り」ではないかと思っています。なぜならば、私の自宅の周りを見回しても、ほとんどの世帯がこの社会福祉協議会が掲げている支援活動のいずれかに当てはまるからです。

また、災害時における高齢者や要配慮者への支援がクローズアップされてきている今日、自治会としてどのような受け入れ体制を築くかが課題になってきています。

このような環境の中で、八清親和会の将来を見据え、どのように取り組んだらよいか、又社会福祉協議会の活動とどのようにタイアップしたらよいか、あるいは、どのような相互補完ができるのか、そして会員のために何をしてあげられるのか、今から模索する必要があると考え参加して来ました。

初めての参加でしたが、勉強になり、いかに自治会に取り込んで活用していくか、をこれから検討すると共に、また、いくつかの課題もありました。

例えば「あきしま支えあいプラン」(平成27年~32年)6年計画の3年目ということですが、パンフレットやこの計画があることすら知りませんでした。

内容を見ると自治会と連携した方がよい取り組みや、情報交換が必要な項目がありますが、今まで自治会役員として、このような内容の接触は全くなかったのが実情です。

なお、お恥ずかしい限りですが、私自身、昨年春、あることがきっかけで社会福祉協議会の活動に関心を持ち、ある方に橋渡しをしていただき、八清地域が担当に入っている東部地域包括支援センターの方にお会いし、時間を取っていただきました。そして学び、意見交換をさせていただいたのがきっかけです。

また、今回の懇談会のブルーワークで、各グループから出された課題・問題点を見ても多くが自治会と共通するものや、関連するものでした。自治会員の高齢化問題に取り組み、地域の自治会であるならば、自治会役員も積極的にこのような懇談会に参加すべきと感じました。

また、賛同している正会員へのPRも、もっと必要ではないのでしょうか。

まず、やれることから即、行動を起こすこととして、八清親和会員には、これら社会福祉協議会活動を知らない人が多く、これを機に、まず自治会員であり社会福祉協議会正会員でもある会員へ、社会福祉協議会の活動を「八清地域に身近に感じる」よう、八清親和会トピックスなどを活用し、知らせることから行動を起こします。

以上、自治会役員が感じた一とり言でした。

以上

